

虚と嘘のマスコミ

マスコミ情報のルーツは多くは権力サイドからの情報が伝わっています。支配者側の思惑抜きにはあり得ません。即ち嘘と虚がちりばめ勝手に増幅し、このため大量に流されている情報の本質や、狙いと背景を私たちは自分で見極めなければなりません。そして常に「なぜ」を検証して考えを修正していかなくてはなりません。自分の判断と

予想した現実との開差を分析、次を想定し行動する。鵜呑みにしない、情報に流されるだけでは迷える羊です。強者の食料なだけです。

日本では設立から100年以上続く企業は約2万社、200年以上の企業は約1千社弱だそうです。創業から5年以内に8割の会社が姿を消しています。

(帝国データバンク)



強い組織の構築と方向性と新陳代謝。もう一つは、環境の変化の対応が企業の寿命を延ばします。

企業は半歩先を行く

前期と比べて何が変わりましたか。何をどう変えようとしていますか。即座に納得できる回答ができるでしょうか。成功するには、平凡ですが当たり前なことを継続することです。そして他社に先駆けて半歩先を進む。しかし先が見えない時代、それ自体が大変に難しいのです。

映像や写真が必ずしも真実を映し出すとは限りません。利用された歴史も多。立ち位置によって見え方は全く異なるものなのです。最近の例では、海上保安庁の尖閣列島沖衝突事件の映像です。菅政権であっても、一部も公表される確立は少ないでしょう。

なぜ経営者は決断力を行使できないのでしょうか。これらを実行に移せない、会社がビッグになる前に、会社がグッド(優秀)なのか。成長に伴う組織や、人の弱体化(保身)に問題がないのか。その対策を練っているか。企業の現状認識が十分でしょうか、強みと弱みを認識しているでしょうか。世の中の動きや人々の要求を

敏感に察知しているでしょうか。ダーウインは「種の起源」で「生き残るのは最も強い者でなく、最も賢い者でもない。変化に迅速に対応できるものである」と。

企業にも当てはまります。自らを変化させることを拒めば、自らの手で破綻を免れない。前期と比べて何が変わりましたか。何をどう変えようとしていますか。即座に納得できる回答ができるでしょうか。成功するには、平凡ですが当たり前なことを継続することです。そして他社に先駆けて半歩先を進む。しかし先が見えない時代、それ自体が大変に難しいのです。



「未来を予測する最善の方法は、未来を創ることである」
困難ですが自分で考え抜き行動し、新しいビジネスモデルを創ることです。

四署の瓦解

警察・税務・労働基準監督・消防の四つの者が日本の署である。世の中が劣化しても四署が正常に機能しておればまだ国に望みはある。しかし、近頃はこの署までも劣化現象が激しい。組織の劣化は末端の現象ではない、組織はすべてアタマにある。税務も現場の調査の劣化現象の本質は、その組織にあります。小泉竹中改革で成果主義を行政に持ち込み、自己保身に走る職員の打算に、お墨付きを与え暴走を役所に蔓延させ、地方にまで劣化したトップと職員を蔓延させたということ。歴史的に、自国民に対して拷問(人権侵害)は日常。検察の特高化。日本人は普通のお父さんでも自ら進んで忠誠の証として平気で参加する傾向がある。あのナチス・ドイツも同じようだ。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2010年10月4日 NO 149
地域から明るい未来を作ろう